

KYT

危険予測トレーニング

第86回 路地の前を通過する時（自転車編）

あなたは自転車通行可の歩道を走っています。
右側の路地から出てきたクルマが通過したので、
横断歩道を渡ろうとしています。
安全に走行するためには、
どのようなことを予測する必要がありますか？



交通事故を回避するためには、路上で出会うさまざまな危険を予測することが大切です。このコーナーでは危険感受性を高めるための題材を提供します。今回は自転車利用者に、路地の前を通過する時の危険について考えてもらうためのKYTです。

活用方法

1. 少人数のグループをつくります。
2. 「交通場面のイラスト」を見ながら、意見を出し合います。
3. その後、「解答・解説※」を参考にして、どんなことに気をつければ良いか再び話し合ってください。

※「解答・解説」と「交通場面のイラスト（カラー・A4版）」は下記SJホームページでご覧いただけます。またPDFファイルもダウンロード（無料）できます。

【使用上の注意】

ホンダ SJ 検索

- 営利目的での利用はおやめください。
- 内容の無断転載、無断改変、一部抜粋しての利用はおやめください。
- その他、使用に関するご質問はお問い合わせください。

本田技研工業（株）安全運転普及本部

TEL：03(5412)1736 E-mail:sj-mail@spirit.honda.co.jp

© 本田技研工業（株）

SJ クイズ ?

自転車編

Q1

自転車の交通指導取締り状況（2017～2021年）において、検挙件数が最も多い法令違反は「信号無視」です。では、2番目に多いのは次のうちどれでしょう？

- ①しゃ断踏切立ち入り ②一時不停止 ③制動装置不良自転車運転

Q2

2022年の自転車（第1・第2当事者※）関連交通事故を相手当事者別にみると、対歩行者、対自転車、自転車単独が占める割合は15.8%です。この割合は10年前と比べ、どのように変化したでしょう？

- ①1.5倍になった ②2倍になった ③ほぼ変わっていない

※ 第1当事者は交通事故の当事者のうち、過失が最も重い者または過失が同程度の場合は被害が最も軽い者。第2当事者は過失がより軽いか、過失が同程度の場合は被害がより大きいほうの当事者。

Q3

道路交通法では、電動アシスト自転車（駆動補助機付自転車）において、モーターによる補助力が加わる速度は何km/h未満と規定しているでしょう？

- ①24km/h ②29km/h ③34km/h



「解答」はP7下、「解説」は下記SJホームページでご覧いただけます。
<https://www.honda.co.jp/safetyinfo/sj/>

小学校の教員に「デジタル交通安全かるた」を無償配布！

「デジタル交通安全かるた」は、これまでご家庭で楽しく交通ルールを学ぶために活用いただいている「Honda交通安全かるた」の親しみやすく、可愛いイラストはそのままに、アニメーション機能などを新たに追加して、子どもたちに覚えてほしい45の交通ルールやマナーを、わかりやすく紹介しています。パソコンやタブレット端末を用い、画面に映し出される絵札を見て子ども自身が考え、読み札で答え合わせを行い教員が解説する、といった構成となっています。日常的に学ぶことが難しい「安全な交通行動」や「命の大切さ」についてクイズ形式で楽しみながら、手軽に繰り返し学べる教材となっています。

この教材を活用いただくことで、子どもたちが日常的に交通安全を学ぶ機会が増え、今まで以上に子どもたちの安全意識を継続的に高めることに役立てばとの思いから、小学校の教員を対象に無償で配布することにしました。

「デジタル交通安全かるた」に関しては下記にお問い合わせください。
本田技研工業（株）安全運転普及本部
TEL 03 (5412) 1150



SJ編集部だより

～交通事故死者ゼロをめざして～

今号の「TRAFFIC SCOPE」では東京都内で自転車利用者のヘルメット着用状況を観察した。

その中で、横断歩道を渡る時、多くの自転車利用者が、歩行者がいても降車しないことが印象的だった。それどころか、歩行者用信号が青の点滅になると、自転車は速度を上げて駆け抜けていく。また、ヘルメットを着用している自転車利用者でもイヤホンを両耳につけたり、スマートフォンを操作しながら走ったりしている姿も見られた。しかしその一方で、ヘルメットをかぶって自転車に乗っていたある男性は

横断歩道にさしかかった際、横断歩道を渡る歩行者がいたため、自転車を降車して押し歩きをした。この男性のように、まず、ヘルメットを着用する自転車利用者から率先して交通ルールを守り、模範を示している社会であってほしい。「ヘルメットをかぶっていることがカッコいい」という認識が広がることで、自転車利用者全体の意識が良い方向に変化していくのではないだろうか。

近い将来、自転車に乗る時にはヘルメットをかぶることが当たり前になっていることを期待したい。